

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

令和5年9月6日現在

部門	事業番号	事業名	内容	ページ	所管部
森林部門	1	環境保全林整備事業		1	林政部
	2	里山林整備事業	①危険木の除去	2	
			②バッファゾーンの整備	3	
	3	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業	①造林未済地等での早生樹等の植栽等	4	
			②森林吸収源対策	5	
	4	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業	①木造化、内装木質化	6	
			②木製品の導入	7	
	5	木質バイオマス利用促進事業	①木質バイオマス利用施設の導入	8	
			②未利用材の搬出	9	
	6	ぎふ木育推進事業	①ぎふ木遊館の管理・運営	10	
			②ぎふの木を使った教材の導入	11	
			③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等	12	
	7	森林空間活用促進事業	①観光道路周辺の観光景観林の整備	13	
			②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修	14	
			③森林空間を活用した活動の普及促進	15	
環境部門	8	野生鳥獣個体数管理事業	①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等	16	農政部
			②カワウやカワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲	17	
			③大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等	18	環境生活部
	9	自然生態系保全・再生事業	①上下流域が連携した河川清掃活動の実施	19	県土整備部
			②河川魚道の改修及び適切な維持管理	20	
			③水田魚道の設置等による水みちの連続性の確保及び効果検証	21	農政部
			④生物多様性の保全・再生の普及啓発	22	環境生活部
			⑤生態系保全・再生に係る活動支援	23	環境生活部 農政部
	10	脱炭素社会ぎふづくり事業	①脱炭素社会ぎふを支える人づくり	24	環境生活部 農政部
			②地域循環共生圏構想の促進	25	環境生活部
共通部門	11	清流の国ぎふ地域活動促進事業		26	林政部 環境生活部

事業評価の考え方について

審議会のご意見を踏まえ第2期より、自己評価については、事業実績(事業量、事業費)の進捗率に基づき、評価を実施しています。

評価項目の進捗率	自己評価
90%以上	高く評価できる
70%以上、90%未満	概ね評価できる
50%以上、70%未満	あまり評価できない
50%未満	評価できない

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林経営課・整備係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容	○環境保全林整備事業費補助金 市町村森林整備計画で環境保全林に区分された水源林、溪畔林、里山林等における間伐、不用木や枯損木等の除去、森林病害虫の防除、放置竹林における整備の実施 ・補助先：市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、林業事業体、特定非営利活動法人等 ・補助率：10/10(県の定める標準事業費が上限、関連条件整備38千円/ha)						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日								
部門	森林部門									
事業名	環境保全林整備事業									
事業概要	「環境保全林」における間伐等の助成									
事業開始年度	平成24年度									
② 事業目的	・既存の林業経営では採算の合わない飲料水や農業用水等の水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林の整備・保全を推進するため、間伐等を支援し、環境を重視した森林づくりを進める。 ・水源地域周辺や急傾斜地等における森林環境の改善により、森林の公益的機能の維持増進が図られる。 ・里山林等の整備により、森林の有する快適環境形成機能や保健・文化機能、生物多様性保全機能などの維持・向上・回復が図られる。			④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画	(人工林の間伐等) 10,500 ha	2,100		2,100	2,100	2,100	2,100		
⑤ 事業費	実績	ha	1,596							
	事業費(千円)		475,555							
	内訳	森林・環境税	475,555							
		(うち前年度繰越分)	128,377							
		他(国庫補助金等)	0							

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額		615,924千円	474,805千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業全体のコスト(翌年度繰越分を除く)					
指標名							
考え方							
II 事業結果	指標名	整備面積		2,100ha	1,596ha	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し実績は76%となった。
	考え方	森林の公益的機能が回復した面積					
	指標名						
	考え方						

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真	実施前		実施後	
	【実施状況(高山市荘川町)】			

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ○林野公共事業における事前評価マニュアルに基づき、洪水防止便益、水質浄化便益、流域貯水便益、土砂流出防止便益等について費用便益分析(B/C)を行う。 ○事業実施前後と実施3年後及び5年後の森林の状況の変化を確認(箇所を抽出して確認) 《モニタリング項目》(ア)林内の光環境、(イ)林床の被覆状況、(ウ)土壌の状況、(エ)生物多様性 ・実施前 : 事業実施主体が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査 ・実施後 : 事業実施主体が、(ア)を再度調査 ・完了確認時 : 農林事務所等が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査 ((イ)、(ウ)、(エ)は、書類内容等の確認) ・3年後及び5年後 : 県が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査	
	【検証結果】 ・費用便益分析(B/C)を令和6年度と令和8年度に行い、計画の中間と最終時点における効果検証を行う。なお、モニタリングの結果は現在取りまとめを行っているため、費用便益分析(B/C)と合わせて今後報告していく。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度実績は計画値に対し76%の実績となった。 ・岐阜地域及び西濃地域において、林業事業体が木材生産に傾注したため、間伐を行う森林技術者が不足したことが計画量を大きく下回った原因と考えられる。 ・「森のジョブステーションぎふ」を核とした担い手確保対策に努めているが、森林技術者不足の解消には至っていない。 ・引き続き、担い手確保対策に努めるとともに、事業地の確保や一層の早期着手、効率的な作業の実施を働きかけ、事業量の拡大を図る。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林活用係
担当者名	

1 事業概要


①概要等	実施事業年度	令和4年度					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日					
	部門	森林部門					
	事業名	里山林整備事業(①危険木の除去)					
	事業概要	「生活保全林」等内の地域住民の生活に支障をきたす危険木の除去					
	事業開始年度	平成26年度					
②事業目的	・人命に関わる可能性の高い保全対象(民家等)への、倒木の恐れがある樹木を除去することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。						
	③事業内容	○里山林整備事業費補助金 【生活保全林整備タイプ】 ・対象森林:生活保全林 ・補助率等:必要経費積上げ額以内の額(共通仮設費、間接費は国が定める率以内とする。) 【森林地域外危険木除去タイプ】 ・事業内容:地域住民から除去の要望が強い森林計画対象外の危険木で市町村が特に必要と認めるもの ・補助率:2/3(上限100万円/箇所) ・事業主体:市町村					
④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	計画	350箇所	70	70	70	70	
⑤事業費	実績	73箇所	73				
	事業費(千円)	136,298					
	内訳	森林・環境税	136,298				
		(うち前年度繰越分)	0				
		他(国庫補助金等)	0				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額	153,850千円	136,076千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業全体のコスト				
指標名						
考え方						
II 事業結果	指標名	危険木の除去(森林地域外を除く)箇所数	70箇所	73箇所	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・事業決定箇所79箇所のうち、6箇所が事業中止となったものの、計画値に対し約104%の実績値となったため。
	考え方	森林内の危険木を除去した箇所数				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【事業実施前】	【事業実施後】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)
	【検証結果】	アンケート調査結果は以下のとおり。 ○森林・環境税を活用しての里山林整備(危険木の除去):「とてもよかった」「よかった」100.0% ○今後、森林の保全再生活動に関わりたい:「非常にそう思う」「ある程度そう思う」91.4% ○住宅周辺の安全・安心:「非常に向上した」「ある程度向上した」97.1%

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度より里山林整備事業のメニューを地域住民の生活に密着した「危険木の除去(森林地域外含む)」と「バッファゾーンの整備」に限定し、地域の要望に沿った里山林整備を推進してきた結果、令和4年度の危険木の除去は73箇所となり計画値の70箇所を上回った。 ・また、地域住民に対するアンケートでも、97.1%が住宅周辺の安全・安心について「非常に向上した」「ある程度向上した」と回答しており、地域のニーズに応えた里山林整備を実施できた。 ・危険木の除去は住民の安全・安心に資する重要な事業であるため、事業計画の段階で事業内容について精査を行うなど、引き続き、効果的な事業実施に努める。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林活用係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 ○里山林整備事業費補助金 【バッファークーンの整備】 ・対象森林:生活保全林 ・補助率等:上限700千円/ha	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日			計画	200 箇所	40	40	40	40
部門	森林部門	実績			44 箇所	44				
事業名	里山林整備事業(②)バッファークーンの整備	⑤ 事業費			事業費(千円)	40,174				
事業概要	野生鳥獣等による被害を軽減するためのバッファークーンの整備	内訳			森林・環境税	40,174				
事業開始年度	平成26年度		(うち前年度繰越分)	0						
			他(国庫補助金等)	0						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	42,241千円	40,174千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・追加要望があったため、補正予算により対応した。 ・目標箇所数を達成したうえで、実績額を95%に抑えることができたため。
		考え方 事業全体のコスト				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 バッファークーンの整備箇所数	40箇所	44箇所	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・事業決定箇所45箇所のうち、1箇所で事業中止となったものの、計画値に対し110%の実績値となったため。	
	考え方 バッファークーンを整備した箇所数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【事業実施前】	【事業実施後】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)	
	【検証結果】 アンケート調査結果は以下のとおり。 ○森林・環境税を活用しての里山林整備(バッファークーンの整備):「とてもよかった」94.9% ○今後、森林の保全再生活動に関わりたい:「非常に思う」ある程度思う92.3% ○野生鳥獣の住宅等への出没:「非常に減りそう(減った)」少し減りそう(減った)76.9% ○野生鳥獣による農業被害:「非常に減りそう(減った)」少し減りそう(減った)71.8%	

(4)自己評価(総合) ※担当課所長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度より里山林整備事業のメニューを地域住民の生活に密着した「危険木の除去(森林地域外含む)」と「バッファークーンの整備」に限定し、地域の要望に沿った里山林整備を推進してきた結果、令和4年度のバッファークーン整備箇所は44箇所となり計画値の40箇所を上回った。 ・また、地域住民に対するアンケートでも、76.9%が野生鳥獣の住宅等への出没について「減りそう(減った)」と回答しており、概ね地域のニーズに応えた里山林整備を実施できた。 ・野生鳥獣による被害の軽減には、バッファークーンの整備に加えて鳥獣侵入防護柵の設置などの対策も重要であることから、引き続き、関係部署と情報共有を行いながら効果的な事業実施に努める。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林経営課・整備係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容	○脱炭素社会に貢献する森林づくり事業費補助金 市町村森林整備計画で環境保全林に区分された造林未済地等において、植栽等を実施。（人工造林、下刈り、雪起こし、鳥獣防止施設等整備） ・補助先 市町村、林業事業者等 ・補助率 定額（県の定める標準事業費） ・市町村森林整備計画に定められた樹種や成長が早い早生樹等が対象					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日							
	部門	森林部門							
	事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業（①造林未済地等での早生樹等の植栽等）							
	事業概要	造林未済地等の再造林への助成							
② 事業目的	事業開始年度	令和4年度	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	・脱炭素社会に貢献するため、環境保全林内の造林未済地等へ、早生樹等の植栽を進め、CO ₂ の吸収量を増やすための森林づくりを推進する。	計画		(植栽等整備)	20	20	20	20	20
		実績		3.76 ha	3.76				
	⑤ 事業費	事業費(千円)		14,340					
		内訳		森林・環境税	14,340				
他(国庫補助金等)		0							

2 自己評価

(1) 実績検証（繰越分を除く。）

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額	49,800千円	14,332千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業全体のコスト(翌年度繰越分を除く)				
指標名						
考え方						
II 事業結果	指標名	整備面積	20ha/年	3.76ha/年	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input checked="" type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し実績は19%となった。なお、翌年度繰越事業面積(17.8ha)を加えた場合は108%の達成状況となる。
	考え方	森林の公益的機能が回復した面積				
	指標名					
	考え方					

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真	<p>植栽面積: 3.49 ha 植栽樹種: スギ(幼齢木保護資材設置)</p> 
	【実施状況(八百津町地内)】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目: 植栽木の生長に伴うCO ₂ 吸収量 ②検証方法: 植栽後の生長量(樹高・直径)を調査し、CO ₂ 吸収量を計測 ③検証対象地: 環境保全林 ④検証頻度: 1回(最終年度のみ)
	【検証結果】	検証方法を確認するため、令和4年度の植栽地について、令和6年度にCO ₂ 吸収量の中間調査を実施予定

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度実績は計画値に対し19%の実績となった。実績値が少ない原因として、苗木の調達が遅れたことや植栽時期が秋以降となり活着率低下を懸念され、実施事業者が少なかったことが挙げられる。 ・繰越により春植栽が可能となり、令和5年度の植栽予定面積が約17haとなっている。今後、事業地の確保や一層の早期着手、効率的な作業の実施を働きかけ、事業量の拡大を図る。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林吸収源対策係／森林文化アカデミー・産学官連携係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度
	計画・評価年月日	令和4年12月22日/令和5年7月14日
	部門	森林部門
	事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業(②森林吸収源対策)
	事業概要	森林クレジットを活用した森林吸収源対策の岐阜モデル構築の検討
事業開始年度	令和4年度	
② 事業目的	・森林吸収によるオフセットクレジットの活用を基本に、森林吸収源対策の岐阜県モデル構築に向けた新たな仕組みを検討する。	

③ 事業内容	森林吸収源岐阜県モデル検討会の開催(①) オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会(①) 森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会の開催(①) オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業 森林吸収源対策普及啓発事業(②)						
	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
④ 目標	計画① (研究会等)	45回	9	9	9	9	9
	計画② (説明会等)	5回	1	1	1	1	1
	実績①	10回	10				
	実績②	1回	1				
⑤ 事業費	事業費(千円)	3,722					
	内訳	3,722					
	他(国庫補助金等)	0					

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	モデル検討会・研究会開催事業費	6,897千円	3,572千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業費のコスト				
指標名		普及啓発事業費	103千円	150千円		
考え方		事業費のコスト				
II 事業結果	指標名	モデル検討会・研究会開催数	9回	10回	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	検討会・研究会開催数は計画を上回り、県独自のクレジット制度案を作成した。セミナーを計画どおり開催し、森林由来のクレジット創出への関心が高まった。
	考え方	開催回数				
	指標名	普及啓発事業開催数	1回	1回		
	考え方	開催回数				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【研究会の開催】	【広葉樹資源量調査】	【セミナーの開催】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	<オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業> ①検証項目 ドローンレーザーを活用した広葉樹林の現況調査 リモートセンシング技術を活用した森林資源量の調査検証 ②検証方法 1～3年目:調査、検証 4～5年目:新たなクレジットモデルの構築に向け、調査、検証の結果を活用 ③検証対象地 実施箇所 ④効果の検証頻度 1回(最終年度のみ) ※最終年度以外は事業の実施状況(研究会における検討経過・普及啓発活動の実施状況など)を事業評価審議会において適宜報告する。
	【検証結果】(事業実施状況の報告)	・オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会では、森林吸収クレジット制度の動向について検討するとともに、J-クレジット制度に可能な限り準拠しつつ、対象森林は同制度を補完するなど課題に対応した県独自の森林吸収クレジット制度の案を作成した。 ・広葉樹林の二酸化炭素吸収量の評価方法検討に向けて、リモートセンシング技術を活用し、資源量調査を行った。 県南部地域(白川町、美濃加茂市)24ha

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・森林吸収源対策岐阜県モデル検討会及び研究会は、計画を上回る10回開催した。 ・オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会では、県独自の森林吸収クレジット制度について検討し、制度案を取りまとめた。森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会では、森林信託の方向性と課題を整理した。引き続き、調査・研究を進め、森林吸収源対策の岐阜県モデル構築に向けて検討を行う。 ・J-クレジット制度の普及を図るため、市町村や林業事業者等を対象とした「J-クレジット制度活用セミナー」を開催したところ、森林由来クレジット創出への関心が高いことが伺えました。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・消費対策係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 ○教育福祉関連施設の木造化・内装木質化 ・補助先: 市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人等 ・補助率: 木造化 17,000円/m ² 以内 内装木質化 10,000円/m ² 以内(ともに上限30,000千円)						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日							
	部門	森林部門							
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(①木造化・内装木質化)							
	事業概要	教育福祉関連施設等の木造化、内装木質化の助成							
事業開始年度	平成24年度								
② 事業目的	・樹木が吸収したCO ₂ を炭素として長期間木材に貯めることにより、脱炭素社会づくりに貢献するため、普及啓発効果の高い、教育福祉関連施設の木造化や内装木質化を推進する。								
	④ 目標	5年間の目標値		R4	R5	R6	R7	R8	
		計画	30 施設	6	6	6	6	6	
実績	4 施設	4							
⑤ 事業費	事業費(千円)		1,661,423						
	内訳	森林・環境税	59,826						
		(うち前年度繰越分)	27,676						
	他(国庫補助金等)		1,601,597						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	97,526千円	59,776千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対し61%であるためあまり妥当ではない。
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 整備施設数	6施設	4施設	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し67%であったが、1施設当たりの県産材使用量は計画(97m ³ /施設)より実績(115m ³ /施設)が上回った。	
	考え方 県森林づくり基本計画に定める計画値					
	指標名 県産材需要量	580m ³ /6施設	459m ³ /4施設			
	考え方 施設の整備で使用される県産材の材積					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【子育て支援拠点施設の内装木質化(坂祝町)】	【ぎふ村の木造化(中津川市)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目: 利用者の声 ②検証方法: 県が行う施設職員へのアンケート調査による ③検証対象地: 全ての整備施設 ④検証頻度: 施設利用者に1回(翌年度)
	【検証結果】	○アンケート調査結果 森林・環境税について知っているか → 知っている 100% 施設利用者や来客者の方々の評価 → とてもよい100% 施設職員の方々の評価 → とてもよい又はよい100%

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	令和4年度の事業投資の実績は計画に対し61%となった。施設数は要望段階では6施設あったが、2施設が取り下げとなり4施設となり計画に対し67%となった。 今後はぎふ木造建築相談センターと連携をさらに密にし事業の掘り起こしに努め、優れた木造化・内装木質化の事例等を周知することで、県産材の利用促進につなげていく。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・消費対策係
担当者名	

1 事業概要



① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容	①学校等の机・椅子等の導入に対する支援 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人等 ・補助率:1/2以内(机・椅子等については上限18千円/セット)					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日		②常設版木育ひろばの備品導入支援(ぎふの木育教材導入支援事業と併せて利用) ・補助先:市町村、社会福祉法人、NPO法人等 ・補助率:10/10以内(上限400千円)					
	部門	森林部門							
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(②木製品の導入)							
② 事業目的	事業概要	学校等の机・椅子等の導入の助成	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	事業開始年度	平成24年度		計画	100 施設	20	20	20	20
・樹木が吸収したCO2を炭素として長期間木材に貯めることにより、脱炭素社会づくりに貢献するため、普及啓発効果の高い、教育福祉関連施設における木製品の導入を推進する。			⑤ 事業費	実績	20 施設	18			
				事業費(千円)	27,419				
				内訳	森林・環境税	12,980			
				(うち前年度繰越分)	0				
				他(国庫補助金等)	14,439				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額(千円)	19,945千円	12,950千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画に対し65%の実績となったが、導入施設数は目標値をほぼ達成できた。
		考え方 木製品を導入する施設等への補助金額				
	指標名	20施設	18施設			
	考え方					
II 事業結果	指標名 導入施設数	20施設	18施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し90%であるため成果が高い。	
	考え方					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【収納棚の導入:ひよし幼稚園(各務原市)】	【机(天板)の導入:根尾学園(本巣市)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:利用者の声 ②検証方法:県が行う事業主体へのアンケート調査による ③検証対象地:全ての導入施設 ④検証頻度:施設利用者に1回(翌年度)
	【検証結果】	○アンケート調査結果 環境税を使った事業と知っているか → 知っている又は知っているが内容は知らない94% ぎふ木育を実施してどうでしたか → 森林や木などに対する関心が高くなった100%

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	令和4年度の導入施設の実績は、事業費では65%となっているが、施設数では90%となった。近年の傾向として、ロッカー、棚、下足入れなどの大型備品の導入要望が多く、1施設当たりの導入数が少ないので、机や椅子などの導入数が多く見込まれる学校施設を中心に事業内容や優れた備品の事例等を周知することで、県産材の利用促進に努める。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・資源活用係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日
	部門	森林部門
	事業名	木質バイオマス利用促進事業(①木質バイオマス利用施設の導入)
	事業概要	公共施設等における木質バイオマス利用施設の導入の助成
②事業目的	事業開始年度	平成24年度
	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導し、2050年カーボンニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、公共施設や商業施設等へ木質燃料を利用するボイラーやストーブの導入を支援する。	

③事業内容	○木質バイオマス利用施設導入促進事業費補助金 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者(多くの県民の利用が十分見込まれる商業・観光・レジャー事業等を営む者に限る。)その他知事が認めるもの ・補助率:導入経費の1/2以内の額 上限:木質資源利用ボイラー:25,000千円/施設(①) :木質資源利用ストーブ:500千円/台(②)						
	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業費	計画①	(ボイラー) 5施設	1	1	1	1	1
	計画②	(ストーブ) 150台	30	30	30	30	30
	実績①	0施設	0				
	実績②	57台	57				
⑤事業費	事業費(千円)		32,678				
	内訳	森林・環境税	15,528				
		(うち前年度繰越分)	0				
		他(国庫補助金等)	17,150				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額(木質資源利用ボイラー)	23,333千円	0千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業を実施する団体等への補助金額				
指標名		補助金額(木質資源利用ストーブ)	11,622千円	15,521千円		
考え方		事業を実施する団体等への補助金額				
II 事業結果	指標名	木質資源利用ボイラー導入施設数	1施設	0施設	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画値に対して、木質資源利用ボイラーは0%、薪・ペレットストーブは190%の実績のため。
	考え方	木質バイオマスの利用を促進する施設				
	指標名	木質資源利用ストーブ導入台数	30台	57台		
	考え方	木質バイオマスの利用を促進する施設				

(2)実施状況写真



(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:木質資源利用ボイラーや木質資源利用ストーブを導入した事業主体や施設利用者の声等 ②検証方法:県が行う事業主体へのアンケート調査 ③検証対象地:全ての導入施設 ④検証頻度:導入した翌年度
	【検証結果】	事業に対する事業主体からの評価は「とても良い」「良い」が100%であった。事業主体からの声として、地域内で燃料調達ができる点や、自然の多い場所で自然エネルギーを利用できる点を評価する意見や、事業の継続やさらなる事業PRの必要性を求める意見が複数あった。一方で、事務手続きの簡素化や、補助対象の条件緩和による対象拡大を求める意見や、燃料となる薪・ペレットの調達について、必要量の確保や価格上昇を心配する意見もあった。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・木質資源利用ストーブについては、多くの県民の来場が見込める公共施設や商業施設等において導入が進み、計画以上の導入を達成することができた。 ・木質資源利用ボイラーについては、従来の主な導入先である温浴施設には一定の水準まで導入が進み、今後は、温浴施設以外への導入も目指して、木質バイオマスの活用方法を広げられるよう、ボイラー・ストーブの導入に向けた研修会等のサポートを実施していく。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	県産材流通課・資源活用係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 ○県民協働による未利用材の搬出促進事業費補助金 ・補助先：市町村(間接補助事業者 地域で組織する協議会、NPO法人、バイオマス加工事業者、森林組合等林業事業体 など) ・補助率：市町村が助成する額の2分の1以内の額(上限額は以下のとおり) ・メニュー ①未利用材搬出 (上限額:1.5千円/t) ②搬出機械導入 (上限額:750千円/事業) ③伐採保護衣等導入 (上限額:保護衣13千円/着、保護帽6千円/個) ④研修会費用 (上限額:30千円/回)	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 22,500 t 4,500 4,500 4,500 4,500 4,500 実績 4,353 t 4,353 ⑤ 事業費 事業費(千円) 26,858 内訳 森林・環境税 6,659 他(国庫補助金等) 20,199
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日		
	部門	森林部門		
	事業名	木質バイオマス利用促進事業(②未利用材の搬出)		
	事業概要	市町村と地域住民との協働による未利用材の搬出の助成		
事業開始年度	平成24年度			
② 事業目的	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導し、2050年カーボンニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、市町村及び地域住民の協働によって搬出された林地残材等の取引を支援することで木質資源の循環利用を促進する。			

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額(未利用材搬出)	8,000千円	6,659千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画値に対して83%の実績となったが、搬出量はほぼ目標値を達成し、効率的に事業が実施できた。 ・計画値に対して97%の実績のため。
		考え方 事業を実施する団体等への補助金額				
	II 事業結果	指標名 未利用材の搬出量	4,500t	4,353t		
		考え方 各地域住民組織等により搬出された未利用材の量				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【未利用材を搬出する様子】		

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:未利用材の搬出に取り組む地域活動組織等の要望等 ②検証方法:県が行う事業主体へのアンケート調査による ③検証対象地:全ての実施箇所 ④検証頻度:実施した翌年度
	【検証結果】	事業に対する活動参加者からの評価は、「とても良い」「良い」が42%、「普通」が38%、「あまり良くない」が4%、「分からない」が17%であった。「とても良い」「良い」の理由としては、参加者のコミュニティの場の創出、流木災害の防止、山が綺麗になって良い、との意見があった。「あまり良くない」と回答した団体については、搬出者に対して地域通貨券を発行しているものの、地域通貨券の使用可能店舗が少ないことが評価の理由であった。 一方で、今後の活動参加者の確保の見込みについて「あまり無い」「無い、または未定」との回答が45%もあり、活動参加者の確保に苦慮する傾向が見られた。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・県内全域で事業を活用した未利用材の搬出が行われ、令和4年度の搬出量は計画値に対して97%となった。 ・地域内の未利用材を木質バイオマス資源として利用促進を図るため、引き続き地域住民が一体となった搬出活動を促進し、低炭素循環型社会の構築を目指したサポートを継続していく。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	ぎふ木遊館・管理調整係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 幅広い世代を対象に木のおもちゃでの遊び等を通じて、ぎふ木育を体験できる場を提供 ・木育イベントの開催 ・木育プログラムを実施 ・木育の指導者を育成	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日			④ 目標	計画 (施設入館者数)	30,000	30,000	50,000	50,000	50,000
部門	森林部門	実績				210,000 人	41,331				
事業名	ぎふ木育推進事業(①ぎふ木遊館の管理・運営)	⑤ 事業費			事業費(千円)	76,873					
事業概要	「ぎふ木育」の常設・総合的な拠点を運営する				内訳	森林・環境税	70,698				
事業開始年度	平成30年度		内訳 (うち前年度繰越分)	0							
			他(国庫補助金等)	6,175							

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	運営経費	88,713千円	70,698千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		運営事業費				
指標名						
考え方						
II 事業結果	指標名	施設入館者数	30,000人	41,331人	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	入館者数は計画値の約1.37倍と大幅に上ることができた。
	考え方	木育に触れることができた人数				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【入館5万人達成】	【木育ひろばの様子】	【木育プログラムの様子】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目：利用者数、利用者の声 ②検証方法：県が行う利用者へのアンケート調査による ③検証対象地：1箇所(ぎふ木遊館内) ④検証頻度：アンケートは随時、集計・検証は年1回	
	【検証結果】 来館者アンケート 実施時期：随時、回答数：782件、満足度結果：「満足」「やや満足」が98% 主な意見：「木にふれ、親しみを感じるようになりました。」「暮らしの中に木製品を取り入れたいと思いました。」「森や木について学びたいと思いました。」「大人も学ぶことができ、ワクワクしました。」等	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない		令和4年度も、前年度に引き続き人数制限・時間制限・事前予約制とし、館内の消毒など新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して運営した。 ・木製遊具や木のおもちゃでの遊びのサポート、木育プログラムなどを実施し、幅広い世代の方を対象に木育を推進することができた。 ・令和4年11月1日からは、来館者の利便性の向上を図るため、入館2部制から3部制に変更し、1日の入館者数の上限を140人から210人に増やしたこともあり、入館者数は計画値の約1.37倍と大幅に上ることができた。 ・今後とも各種広報等により、ぎふ木遊館の魅力を周知する。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・木育推進係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 ○ぎふの木育教材導入支援事業費補助金 ・木のおもちゃ等の導入経費の1/2以内(上限100千円/施設) ・木製品キットの導入経費の1/2以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育教室を実施する場合、木育教材の導入経費の10/10(導入費用が20千円を超える部分は1/2)以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育ひろば認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限100千円/施設)。地域支援拠点認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限200千円/施設)						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日							
	部門	森林部門							
	事業名	ぎふ木育推進事業(②ぎふの木を使った教材の導入)							
	事業概要	ぎふの木を使った教材(おもちゃ、キット等)の導入の助成							
② 事業目的	事業開始年度	平成24年度							
	事業目的	・将来の森林づくりを担う子どもたちに対し、木材利用や環境保全に対する理解を深めるとともに、「ぎふ木育」の取組みを進めるために、特に普及啓発効果の高い教育福祉関連施設等において、直接木を見て触れることのできる木のおもちゃ等や木製品キットの導入に対して支援することを目的とする。							
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8		
		計画	300 施設	60	60	60	60	60	
	⑤ 事業費	実績	69 施設	69					
事業費(千円)			7,008						
内訳		森林・環境税		3,694					
	他(国庫補助金等)		3,314						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額		4,000千円	3,694千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		木育教材を導入する施設への補助金額					
指標名							
考え方							
II 事業結果	指標名	導入施設数		60施設	69施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・導入施設数は計画値の115%となった。
	考え方	木育教材を導入する施設の数					
	指標名						
	考え方						

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【桜のスパークルキット】	【教材を使った製作の様子(スギの箱イス)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:利用者数、利用者の声等 ②検証方法:県が行う施設職員へのアンケート調査による ③検証対象:全ての導入施設 ④検証頻度:1回(翌年度5月)
	【検証結果】	・導入した木育教材(木のおもちゃや木製品キット)を利用者数は延べ5,660名であり、多くの子どもに木とふれあい親しむ機会を設けることができた。 ・子どもたちや保護者の反応の設問に対し、「非常によかった」が67%、「よかった」が32%、併せて99%であり、木育教材に対する好意的な意見が多数見られた。 ・令和5年度にも補助事業を活用する予定のある施設は81%で、補助があることで導入の動機となったり、複数年にわたり継続して木育教室を開催できるという意見があった。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・ぎふ木遊館と連携して保育園等への事業の紹介など広報に努め、事業投資は計画値内(92%)で、導入施設数は計画値以上(115%)となった。 ・引き続き、各施設で募集チラシやHPで事業の趣旨及び税活用の広報をしてもらうよう働きかける。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・緑化推進係・木育推進係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 〈緑と水の子ども会議〉 ・小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に対する環境教育の実施支援(講師の派遣、教材の提供、バス代負担等) ① 〈ぎふ木育教室〉 ・幼稚園・保育園等の子育て関連施設を対象とする森と木に関する体験講座の実施(講師の派遣) ① 〈市町村企画事業〉 ・市町村が主体となり、幅広い世代を対象として行う独自に企画する事業の活動費の助成 ②				
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日					
部門	森林部門						
事業名	ぎふ木育推進事業(③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等)						
事業概要	子どもたち、一般市民を対象とした、森や木や川に関する環境教育						
事業開始年度	平成24年度						
② 事業目的	・子どもたち及び幅広い世代を対象に、ぎふの豊かな自然(森・川・里山など)の持つ様々な公益的機能やそれらの保全に関する正しい知識の提供、森・川・海のつながりを実感するためのフィールドを活かした環境教育、木に触れ合うことを通じて自然に親しむ体験活動などの実施に対し支援し、将来の清流の国ぎふを担う人づくりを推進する。						
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
		計画① <small>(緑と水の子ども会議等参加者数)</small>	34,000 人	6,800	6,800	6,800	6,800
		計画② <small>(市町村支援数)</small>	55 件	11	11	11	11
		実績①	0 人	7,015			
⑤ 事業費	実績②	0 件	8				
	事業費(千円)		32,866				
	内訳		26,031				
	他(国庫補助金等)		6,835				

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	11,352千円	8,552千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画値に対し、事業費は75%、補助金額は72%となった。
		考え方 緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の開催に係る費用				
	指標名 補助金額	22,000千円	15,798千円			
	考え方 市町村が企画する事業の補助金額					
II 事業結果	指標名 ぎふ木育の参加者数	6,800人	7,015人	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・参加者数は計画値の103%となり達成したが、市町村への補助件数は計画値の72%となった。	
	考え方 緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の参加者数					
	指標名 採択件数	11件	8件			
	考え方 市町村が独自に企画する事業の件数					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【緑と水の子ども会議(間伐体験)】	【ぎふ木育教室(野遊びウォーク)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 〈緑と水の子ども会議・ぎふ木育教室〉 ①検証項目:実施団体等の職員が子供を観察した結果を調査 ②検証方法:実施報告書による ③検証対象地:全ての実施施設 ④検証頻度:1回	〈市町村企画事業〉 ①検証項目:活動参加者数 ②検証方法:市町村からの実績報告書による ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:1回
	【検証結果】 ・緑と水の子ども会議では、「生活の身近にある森林の役割、森林の維持の大切さを学ぶことができた」「樹木や林業の仕事に興味をもつ貴重な体験となった」という好意的な意見が多く見られた。 ・市町村の独自企画は、「木を削り、匂いを嗅いで普段は出来ない体験から木に親しみが持てた」「園の周りの身近な自然の楽しさに気づききっかけとなった」という好意的な意見が多く見られた。 ・市町村企画事業では、木育研修に参加した方から、「野外活動やネイチャーゲームを知り、普段の生活で樹木や環境に興味を持つ機会が増えた」という意見が見られた。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・計画値より少ない事業投資で、計画値を上回る子どもたちに参加してもらうことができた。 ・市町村の独自企画は、採択件数は計画値より少なかったものの、約5,000人が参加し、幅広い世代にぎふ木育の推進を図ることができた。 ・今後も実績の少ない地域を中心に、さらに興味をもっていただくような周知を積極的に行い、参加者数の増加を図っていく。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・緑化推進係
担当者名	

1 事業概要


① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容	観光景観林整備事業費補助金 ・補助先:市町村 ・補助率:不用木の除去(上限220千円/ha)、不用木の除去(伐採処理含む) (上限500千円/ha) 景観形成のための植栽(上限700千円/ha)、伐採木等の搬出 (上限7千円/m ³) 【観光景観林総合整備事業のみ】 関連条件整備 38千円/ha上乗せ、整備計画策定(上限 必要経費の範囲) 附帯施設整備 1/2以内(上限10,000千円)						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日								
	部門	森林部門								
	事業名	森林空間活用促進事業(①観光道路周辺の観光景観林の整備)								
	事業概要	景観としての価値が高い観光道路等沿いの森林の整備								
事業開始年度	平成29年度									
② 事業目的	・観光道路等から眺望ができ、景観として価値が高く、観光客を呼び込み、地域活性化等に資することができる森林について、観光景観林としての関与の高い管理・整備を推進することによって、各地域の優れた森林景観の形成を図る。									
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8			
⑤ 事業費	計画	500 ha	100	100	100	100	100			
	実績	ha	60							
	事業費(千円)		34,117							
	内訳	森林・環境税	28,652							
		(うち前年度繰越分)	0							
		他(国庫補助金等)	5,465							

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由			
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	29,700千円	28,548千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画値に対し96%の実績となった。		
		考え方 事業全体のコスト						
	II 事業結果	指標名 整備面積	100ha	60ha			<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	目標に対し60%の整備面積となった。
		考え方 森林の公益的機能が改善した面積						
指標名								
考え方								

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	事業実施箇所の整備状況(瑞浪市内)	

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:整備後の事業主体や地域住民の声の調査 ②検証方法:アンケートなどによる ③検証対象地:抽出による ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月) ⑤開始時期:令和5年度	
【検証結果】 ○事業実施に対し高い評価を得られた。以下は、寄せられた意見のうち主なもの ・景観が良くなり、観光客の増加や町の活性化が期待できる。 ・整備により、観光景観林内の史跡への来訪者が増えた。 ・森林所有者や観光客等すべての人に森林整備の重要性を伝えることのできるよい事業である。 ・これからもどんどん進めてほしい。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・目標整備面積100haに対し、実績は60haとなった。原因として、本事業は第2期において整備が進んだことにより、相対的に整備しやすい事業地が減少したことが挙げられる。 ・一方、事業主体や地域住民からは、整備の効果を実感した旨の意見が寄せられており、事業に対する期待も高く、さらに整備を進めていく必要性が高いため。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林サービス産業支援係
担当者名	

1 事業概要



① 概要等	実施事業年度	令和4年度					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日					
	部門	森林部門					
	事業名	森林空間活用促進事業(②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修)					
	事業概要	森林空間の活用を図るための施設の設置・改修					
事業開始年度	平成24年度(里山林整備事業で実施)						
② 事業目的	・森林公園等の森林空間における新規の施設整備や既存施設の改修を支援し、健康、観光、教育等、森林空間の新たな活用を図る。						
	③ 事業内容	○森林空間施設整備促進事業費補助金 【施設整備タイプ】 ・補助率等:上限5,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする) 【既存施設改修タイプ】 ・補助率等:上限3,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする)					
		④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7
	計画	40 施設	8	8	8	8	8
	実績	12 施設	12				
⑤ 事業費	事業費(千円)		27,612				
	内訳	森林・環境税	24,210				
		他(国庫補助金等)	3,402				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	補助金額	24,428千円	24,210千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業全体のコスト				
指標名						
考え方						
II 事業結果	指標名	実施箇所数	8施設	12施設	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画値に対し、150%の実績値となり、多くの箇所を実施することができた。
	考え方	施設整備及び既存施設改修実施箇所数				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		➔	
	【事業実施箇所の状況(坂祝町 原火谷遊歩道)】		

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:整備後の施設の状況、事業主体や地域住民の評価 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:1事業実施箇所につき1団体以上 ④検証頻度:整備後の1回(翌年度5月)	
【検証結果】 アンケートの結果、「自然観察や散策、里山の手入れなど地域の森林空間がより利用しやすくなったと思いますか。」との問いに対して「非常にしやすくなった」「ある程度しやすくなった」と回答した事業主体が9割以上であった。 また、「今後、この森林空間を地域全体で保全していこうと思いますか。」との問いに対して、「非常にそう思う」との回答が9割以上であった。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・当事業の実施によって、地域の森林空間の利用促進に貢献することができたほか、森林保全の意識を高める結果にもなった。 ・森林空間を活用した施設の設置・改修に関するニーズは高く、令和4年度は予算を超える要望があった。また、森林サービス産業の育成・支援は不可欠な事業であり、事業者等からの要望も多いため、対象者を市町村のみから事業者等へ広げ、次年度以降は事業費を拡充し対応していく。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	林政部
担当課・係名	森林活用推進課・森林サービス産業支援係
担当者名	

1 事業概要


① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 ○普及促進 森林空間の活用を促進するため、企業や団体等に向けたセミナーの開催や人材育成、プログラム開発支援 ○協議会の設立・運営 森林空間活用の推進母体となる「ぎふ森のある暮らし推進協議会」の設立・運営	④ 目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (協議会会員数(者)累計) 60者 70 80 90 100 実績 142者	⑤ 事業費 事業費(千円) 2,489 内訳 森林・環境税 2,489 うち前年度繰越分 0 他(国庫補助金等) 0
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日			
	部門	森林部門			
	事業名	森林空間活用促進事業(③森林空間を活用した活動の普及促進)			
	事業概要	森林空間を活用した活動の普及促進			
事業開始年度	令和4年度				
② 事業目的	・森林空間活用の推進母体となる「ぎふ森のある暮らし推進協議会」を設立し、企業・団体等の様々な知見を活用し、多様な主体との連携により森林空間の活用を促進する。				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	3,700千円	2,489千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・計画値に対し67%の実績となったが、協議会の会員数は目標を大幅に達成し、効率的に事業が実施できた。 ・多くの事業者、団体に協議会に加入いただき、計画値の237%の実績となった。
		考え方 事業全体のコスト				
	II 事業結果	指標名 協議会会員数(者)累計	60者	142者		
		考え方 新たに設置する協議会に加入した企業等の数				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【森林サービス産業普及促進セミナー】	【ぎふ森のある暮らし推進協議会 設立総会】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:セミナーに参加した企業・団体等の声 ②検証方法:アンケートによる ③検証対象:企業・団体等 ④検証頻度:1回	
	【検証結果】 「森林サービス産業普及促進セミナー」実施後のアンケートでは、基調講演、事例発表、パネルディスカッションの3つのプログラムすべてで70%以上が「参考になった」との回答を得た。また、「セミナーを通じて、森林サービス産業事業を「立ち上げたい」もしくは「拡大したい」と思ったか。」との問いに対して、約半数が「思った」との回答であった。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・「ぎふ森のある暮らし推進協議会」について、当初の予定通り令和5年1月に設立し、県全体で森林空間の活用を推進する機運を高めることができました。 ・セミナーの開催等により、多くの事業者、団体に協議会に森林空間の活用に興味を持っていただき、年度末時点で目標を大きく上回る142者に協議会に加入いただくことができました。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	農政部
担当課・係名	農村振興課・鳥獣害対策係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度	③事業内容 ○市町村等が行うニホンジカ捕獲への支援、集落ぐるみによる捕獲の体制づくりの支援、県が主体となった広域捕獲 1 市町村が作成する事業計画に基づく捕獲に対する支援 補助対象：市町村、地域協議会、農業協同組合、森林組合、農業共済組合、漁業協同組合等 ①ニホンジカの個体数調整捕獲に対する助成（捕獲報償費 15千円/頭、捕獲に必要な物品購入費 200千円以内） ②わな捕獲を中心とした捕獲体制の整備に対する助成 （地域住民が主体的にわな捕獲を行う体制を構築するために必要な経費 1,000千円/地区以内） 2 わなによる捕獲技術の向上に係る研修会の開催(委託) 3 県が主体となったニホンジカの捕獲(委託) 4 被害防止捕獲等に従事する市町村等職員の育成に対する助成 （銃猟免許の新規取得・猟銃の所持許可・銃器等の購入に係る経費 上限500,000円/人）	④目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (ニホンジカの捕獲数) 7,000 7,000 7,000 7,000 7,000 実績 35,000 頭 6,300 頭 ⑤事業費 事業費(千円) 102,557 内訳 森林・環境税 100,807 うち前年度繰越分 0 他(国庫補助金等) 1,750
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日		
	部門	環境部門		
	事業名	野生鳥獣個体数調整事業(①ニホンジカの個体数調整を目的とした捕獲等)		
	事業概要	ニホンジカの個体数調整を目的とした捕獲に係る支援等		
	事業開始年度	平成24年度		
②事業目的	・個体数調整を目的としたニホンジカの捕獲実施により、農林業や生活環境、生態系等への被害軽減を図る。			

2 自己評価

(1)実績検証（繰越分を除く。）

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	事業費	120,000千円	100,807千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		事業全体のコスト				
指標名						
考え方						
II 事業結果	指標名	捕獲数(個体数調整捕獲事業・指定管理鳥獣捕獲等事業)	7,000頭	6,300頭	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し、90%の6,300頭を捕獲することができた。
	考え方	どれだけ捕獲したか				
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【わな捕獲技術向上研修会】	

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目：捕獲数、野生鳥獣による農作物被害額 ②検証方法：市町村からの報告による ③検証対象地：事業を実施した全ての市町村 ④検証頻度：1回 ⑤開始時期：令和5年度	
	【検証結果】 捕獲数：個体数調整事業6,160頭(昨年比467頭減、20市町村による)、指定管理鳥獣捕獲等事業140頭(昨年比448頭減)。取組の実施主体が1村増加した。 野生鳥獣による農作物被害額：ニホンジカによる被害が最大となった平成25年度(10,514千円)から、近年は半分以下に減少している(令和3年度は5,034千円)。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	令和4年度は、目標には届かなかったものの6,300頭の捕獲を行うことができた。指定管理鳥獣捕獲等事業の実施時期が例年より短期間となったことも要因であり、次年度以降は期間を確保できるよう取組を進める。農作物被害額は近年減少傾向にあるが、未だ毎年5,000千円前後の被害がある。今後も農作物被害の軽減に向けて、継続的に個体数調整捕獲に取り組んでいく。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	農政部
担当課・係名	農村振興課・鳥獣害対策係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日					
② 事業目的	部門	環境部門					
	事業名	野生鳥獣個体管理事業(カワウやカワアイサ及びサギ類の個体管理を目的とした捕獲)					
	事業概要	カワウ等の捕獲等による被害対策活動に対する支援					
	事業開始年度	平成29年度					
③ 事業内容	1 事業内容 市町村及び漁業協同組合等が行うカワウ、カワアイサ及びサギ類の捕獲及び追い払い等に必要な経費を補助する。 2 補助率等 (1)補助率 10/10以内で予算の範囲内の額 (2)補助限度額 1,800千円/団体						
	④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤ 事業費	計画	5,000羽	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	実績	727羽	727				
	事業費(千円)		21,856				
⑤ 事業費	内訳	森林・環境税	20,208				
		(うち前年度繰越分)	0				
		他(国庫補助金等)	1,648				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	24,700千円	20,208千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画値に対し、約81.8%の事業費を活用し、カワウ等の捕獲・追い払いを実施できた。
		考え方 事業がどれだけ実施されたか				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 カワウ等捕獲羽数	1,000羽	727羽	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	計画値に対し、72.7%の羽数を捕獲することができた。	
	考え方 どれだけカワウ等を捕獲したか					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真		
	【爆音機設置作業の様子】	【防鳥糸設置作業の様子】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証項目:各漁協組合員の声、活動状況 ②検証方法:各漁協等からの報告、聞き取りによる ③検証対象地:事業実施主体管内 ④検証頻度:1回	
	【検証結果】 各漁協組合員の声:カワウの対策のために大きな支援をいただいている、次年度以降サギの捕獲にも力をいれていくつもりだ、補助上限が1,800千円となったことで活動の幅が広がった、等。 活動状況:実施者28団体のうち、23団体が捕獲を実施し、カワウ710羽、カワアイサ13羽、サギ類4羽の計727羽を捕獲した。また、うち18団体がロケット花火、防鳥糸、ドローンなどにより追い払い活動を行った。活動内容、捕獲数とも前年と同規模である。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	漁業被害等抑制のためカワウ等の被害対策活動への支援を行い、令和4年度は目標には届かなかったものの、前年と同規模の727羽のカワウ等を捕獲するとともに、追い払いにより河川への飛来数を減らすことができた。新たに対象としたサギ類の捕獲は多くなかったが、今後取り組みが進む予定であり、引き続き活動支援を行い被害対策を推進する。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部
担当課・係名	環境生活政策課・生物多様性係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度	③事業内容 ①野生動物の生息状況調査・研究 ・野生動物広域カメラモニタリング調査・研究、ニホンザルの行動追跡、ニホンジカ等の高山帯への侵入状況の調査等 ②野生動物管理に対する技術指導 ・市町村等に対する効果的な捕獲手法・効果検証の指導等 ③人材育成・教育支援 ・鳥獣関係行政担当者向け研修会の実施、農林高校・森林文化アカデミー等の教育支援等 ④普及啓発 ・連続講座のオンライン開催、シンポジウム等による野生動物管理の重要性等の普及啓発等	④目標 5年間の目標値 R4 R5 R6 R7 R8 計画 (市町村等への技術指導) 50件 10 10 10 10 10 実績 10件 10 ⑤事業費 事業費(千円) 20,157 内訳 森林・環境税 20,157 うち前年度繰越分 0 他(国庫補助金等) 0
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日		
	部門	環境部門		
	事業名	野生鳥獣個体管理事業(③大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等)		
	事業概要	岐阜県の野生動物管理に関する調査研究、政策提案及び人材育成		
	事業開始年度	平成24年度		
②事業目的	<p>・平成24年に野生動物被害防止対策に係る寄附研究部門を岐阜大学に設け、官学が連携し野生動物の調査研究や人材育成に取り組んできたが、野生動物による被害防止対策の一層の強化を図るため、岐阜県と岐阜大学で共同で、実践的な野生動物管理を行うシンクタンクとしての役割を担う「岐阜県野生動物管理推進センター」を新たに設置する。</p> <p>・当センターでは、画像解析技術などを活用し、野生動物の生息状況のモニタリング調査を実施、その調査結果をもとに市町村が実施する鳥獣害対策への助言・支援や、農林業従事者、県民を対象とした研修・講座の実施など、野生動物を科学的かつ積極的に管理していく「戦略的被害対策」を推進する。</p>			

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
⑥実績検証 I 事業投資	指標名 野生動物管理のためのシンクタンク機関の運営費	21,000千円	20,157千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画値に対し96%の実績となったため。
	考え方 事業全体のコスト				
	指標名	10件	10件		
	考え方 市町村等への技術指導件数				
II 事業結果	指標名 市町村等への知見・技術等の地域貢献	15件	21件	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・両指標とも実績値が計画値を上回ったため。
	指標名 野生動物管理に関する調査・研究成果の発表件数				
	考え方 調査・研究成果の発信				
	考え方 調査・研究成果の発信				

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【連続講座(岐阜市)】	【技術指導(飛騨市)】	【センター設立シンポジウム(岐阜市)】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 検証項目: 技術指導件数と指導の内容 検証方法: 岐阜県野生動物管理推進センターからの活動実績報告による 検証対象地: 全ての技術指導実施場所 検証頻度: 年1回	
	【検証結果】 県内の市町村などに計10件の技術指導等を行い、科学的データ、知見等に基づく助言、指導、支援を実施した。 個別には、飛騨市の池ヶ原湿原におけるシカ・イノシシの被害対策の指導を実施した結果、次年度の電気柵設置等が予定されるなど、対策が前進した。 岐阜市では、金華山の野生動物の管理に関して、研究データを用いた助言を行い、市の事業の適切な実施に寄与した。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	県民等を対象に連続講座(3回)、シンポジウム(2回)を開催し、野生動物管理の課題や重要性等について発信した。 ・野生動物関係行政等におけるシンクタンク機関として論文10件、著書1件、研究発表10件、合計21件の研究成果等を発表し、関係機関に還元した。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	県土整備部
担当課・係名	河川課・維持係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度					
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日					
	部門	環境部門					
	事業名	自然生態系保全・再生事業(①上下流域が連携した河川清掃活動の実施)					
	事業概要	上下流域が連携した河川清掃活動への支援					
事業開始年度	平成24年度						
② 事業目的	・第2期までに連携を図ったNPO法人や地域住民等民間団体と県が協働し、流域全体を対象とした河川清掃活動に連帯して取り組むことにより、効率的な河川清掃モデルの確立と流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図る。						
	③ 事業内容	・県内5流域において、NPO、地域住民等民間団体と行政が連携し、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を洗い出し、集中的に清掃・整備を行い、流域が一体となった効率的な河川清掃モデルを確立し継続を図るため、県管理河川の河道内樹木の伐採・除去や、不法投棄廃棄物等の回収を行う。					
④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
	計画	延べ100 河川	20	20	20	20	20
⑤ 事業費	実績	31 河川	31				
	事業費(千円)	29,995					
	内訳	森林・環境税	29,995				
		(うち前年度繰越分)	0				
		他(国庫補助金等)	0				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	30,000千円	29,995千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画値に対し99%の実績となった。
		考え方 河川清掃活動の実施費用				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 実施河川数	20河川	31河川	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・実施河川数は計画値の約155%となった。	
	考え方 連携して河川清掃を実施した河川数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真	実施前	実施後
		
【実施状況】		

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:回収した樹木や廃棄物の量 ②検証方法:各土木事務所からの実績報告による ③検証対象地:実施した回収作業すべて ④検証頻度:1回 ⑤開始時期:活動実施年度末
	【検証結果】	検証の結果、回収した樹木は、約800m3であった。 連携を図ったNPO法人や地域住民等民間団体と県が協働し、流域全体を対象とした河川清掃活動に連帯して取り組むことにより、効率的な河川清掃モデルの確立と流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図ることができた。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度の計画値の20河川に対し31河川において清掃等活動を実施した。 ・NPO等と県が協働・連携し、流域全体で清掃活動を行うことにより、県民の河川環境保全意識が向上した。 ・引き続き、NPO等と連携して要対策箇所を把握しながら、清掃等活動を推進する。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	県土整備部
担当課・係名	河川課・維持係
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度	③事業内容	・県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道672箇所を対象に、県民協働で年1回程度点検を行い、魚道の状態を把握する。点検を効果的・効率的に行うため、点検の際には、岐阜県自然共生工法研究会(魚道研究専門ワーキンググループ)と連携して作成した、魚道の機能を簡便に評価できる「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いる。 ・点検を踏まえて、魚道としての機能が低下していると判断された箇所については、魚道内の堆積土砂の除去等を実施し、魚道の機能回復を図る。						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日								
部門	環境部門									
事業名	自然生態系保全・再生事業(②河川魚道の改修及び適切な維持管理)									
事業概要	県管理河川に設置された魚道の適切な維持管理の実施									
事業開始年度	平成24年度									
②事業目的	・県は、長良川をはじめとした主要な河川で「魚がのぼりやすい川づくり」を推進し、魚道整備等によって魚類等の遡上・降下環境の改善対策を実施。 ・引き続き、整備した魚道の状態の把握と適切な維持管理によって、河川の連続性の確保を図り、魚がすみやすい環境の創出を図る。			④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画	(健全な魚道の割合) 80%	80		80	80	80	80		
				実績	87%	86.8				
⑤事業費	事業費(千円)			44,983						
	内訳			44,983						
	森・環境税			44,983						
	(うち前年度繰越分)			0						
	他(国庫補助金等)			0						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥実績検証	I 事業投資	指標名 事業費	45,000千円	44,983千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・計画値に対し99%の実績となった。
		考え方 魚道の適正な維持管理費用				
	指標名					
	考え方					
II 事業結果	指標名 健全な魚道の割合	80.0%	86.8%	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、計画値80%に対し、86.8%となった。	
	考え方 点検により健全と判断された魚道数					
	指標名					
	考え方					

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	実施前	実施後
		
【長良川(郡上市)における魚道の改善状況】		

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	
	①検証項目:魚類遡上調査 ②検証方法:機能回復を実施した魚道における遡上可能魚類数の計測 ③検証対象地:県管理河川および砂防施設に設置された魚道 ④検証頻度:年1回程度 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度	
【検証結果】		
前年度に魚道修繕を実施した箇所において、魚類遡上調査を実施し、ヨシノボリ類19匹、アブラハヤ38匹を確認することができました。 継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全状態に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、健全な魚道の割合80%以上を達成した。 ・今後は、簡易モニタリングの試行を進め、修繕を行った魚道の機能回復状態の評価や、補修事例集を共有し、より効率的な事業実施を図る。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・県管理河川及び砂防施設に設置された全ての魚道672箇所に対して点検を実施した。 ・継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全状態に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、健全な魚道の割合80%以上を達成した。 ・今後は、簡易モニタリングの試行を進め、修繕を行った魚道の機能回復状態の評価や、補修事例集を共有し、より効率的な事業実施を図る。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	農政部
担当課・係名	農村振興課、農地整備課
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日						
	部門	環境部門						
	事業名	自然生態系保全・再生事業(③水田魚道の設置等による水みちの連続性確保及び効果検証)						
事業概要	水田及び農業用排水路内の生態系回復と、環境改善の普及促進							
事業開始年度	平成24年度							
② 事業目的	・面的な広がりを持った水みちの連続性を確保し、河川や農地に生息する魚類の繁殖や生息空間を再生するとともに、地域住民や農業従事者等に対し、生態系回復の成果を基にした普及啓発活動を展開する。							
	③ 事業内容	①事前調査:事業予定箇所の魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ②水田魚道の設置⇒ 事業主体:県(農村振興課)*一般県民と協働で設置 ③農業用排水路や河川の落差解消工事に係る補助(農地整備課) ⇒ 事業主体:市町村、土地改良区等・補助率:10/10、上限5,000千円 ④事後調査:事業箇所の魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ⑤環境学習会の開催等による普及啓発 ⇒ 事業主体:県(農村振興課・水産研究所)						
		④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
			計画	20 地区	4	4	4	4
実績	6 地区	6						
⑤ 事業費	事業費(千円)	3,298						
	内訳	森林・環境税	3,298					
	他(国庫補助金等)	0						

2 自己評価

(1)実績検証(緑越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 ハード整備事業費	3,000千円	444千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・ハード対策は計画値の15%、ソフト対策は計画値の82%であったが、効率的に活動を実施した。
		考え方 水田魚道設置、落差解消事業費				
	II 事業結果	指標名 ソフト対策事業費	3,963千円	2,854千円		
		考え方 効果検証、事業普及啓発事業費				
	I 事業投資	指標名 ハード整備に取り組む地区数	1地区	2地区	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	ハード整備は計画値の200%、ソフト対策は計画値の133%の達成率となった。
		考え方 水田魚道設置または落差解消地区数				
	II 事業結果	指標名 ソフト対策に取り組む地区数	3地区	4地区		
		考え方 住民協働による普及啓発活動の実施地区数				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真				
	【農業用排水路内の落差解消工事】	【水田内で増殖したフナ稚魚】	【県民と連携した野外調査】	【農業排水路の魚類調査】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	
	①検証項目:ア)水田魚道の遡上数、イ)落差解消路線における魚類数 ②検証方法:ア)自動計数装置、イ)農業用排水路調査 ③検証対象地:ア)水田魚道の設置地区、イ)落差解消された農業用排水路 ④検証頻度:年1回 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度	
	【検証結果】	
ア)水田魚道の遡上数 3カ所の水田魚道で総計11魚種、892尾の魚類遡上を確認 (海津市五町:7種685尾、関市千足:7種202尾、養老町石畑:2種5尾)		
イ)落差解消路線における魚類数 河川・農業水路の落差解消で魚類の種数/捕獲個体数の増加をほぼ確認 (関市千足:4種→11種/44個体→179個体、関市上白金:3種→9種/22個体→331個体、 可児市今4種→7種/213個体→338個体、養老町石畑9種→8種/495個体→713個体)		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和4年度計画値に対し、ハード整備で200%、ソフト対策で133%の実績を達成した。(地区数ベース) ・河川内の落差解消、農業用排水路内の落差解消と連携して取組を実施しており、魚道設置の効果がより大きく期待できる。 ・過去に設置した魚道において水田魚道の効果検証を行った結果、数多くの魚類の遡上が確認されたことから、水田魚道の設置により魚類の繁殖場としての水田の機能回復が図られたと考える。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	環境生活部
担当課・係名	環境生活政策課・生物多様性係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日
	部門	環境部門
	事業名	自然生態系保全・再生事業(④生物多様性の保全・再生の普及啓発)
	事業概要	シンポジウムの開催等による生物多様性の保全・再生の普及啓発
事業開始年度	平成24年度	
② 事業目的	・県民、企業、市町村、民間団体等の各主体が、それぞれの立場で生物多様性の保全について考え、行動に取り組む契機として、生物多様性シンポジウムを開催する。シンポジウムの開催にあたっては、より多くの県民に参加いただけるよう、DX技術を活用したデジタル配信を実施する。 ・民間や県が取り組む希少野生生物等の保護活動を教材とする出前講座、体験学習等により県民の学習の機会を提供する。	

③ 事業内容	①生物多様性に関するシンポジウム等の開催 ②生物多様性に関する専門家講座の実施 ③絶滅危惧種の保全実施とそれを活用した子どもたちの保全体験 ④生物多様性に関する取組み情報等の配信						
	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8	
④ 目標	計画 (シンポジウム等の開催)	14	14	14	14	14	
	実績	28	28				
⑤ 事業費	事業費(千円)	1,000					
	内訳 森林・環境税	1,000					
	内訳 (うち前年度繰越分)	0					
	他(国庫補助金等)	0					

2 自己評価

(1)実績検証 (繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由	
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 生物多様性普及啓発に関する事業費	1,000千円	23千円	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・新型コロナ対策としてシンポジウムの規模を縮小したことで減額となったが、計画以上の回数を開催することができたため。
		考え方 事業費のコスト				
	II 事業結果	指標名 希少種保全・体験等に関する事業費	1,000千円	978千円		
		考え方 事業費のコスト				
	I 事業投資	指標名 シンポジウム等実施回数	7回	20回	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・出前講座等を積極的に開催し、計画値に対し200%の実績となったため。
		考え方 普及啓発等活動数				
	II 事業結果	指標名 希少種の保全体験等実施回数	7回	8回		
		考え方 保全体験等活動数				

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真			
	【イタセンバラ飼育状況(各務原市)】	【出前講座(岐阜市)】	【生物多様性シンポジウム(岐阜市)】

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 検証項目 : 生物多様性や希少種保全に関する理解度 検証方法 : 参加者へのアンケート調査等による 検証対象地 : 普及啓発活動等の実施場所 検証頻度 : 年1回	
	【検証結果】 アンケートや感想文等から、理解できたとの回答が100%、保全のために何かをしたいとの回答が98%、これからも希少種の話を知りたいとの回答が78%であり、参加者の生物多様性や希少種保全の重要性に関する理解度等が向上したことを確認した。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・生物多様性に関するシンポジウムや講習会等を計28回開催し、871名にその生態や絶滅危惧種の保全に関する啓発を行った。 ・3月に岐阜市内で生物多様性シンポジウムを開催した。 ・これらの取組みに加え、ライチョウ等の様々な生物種の保全等の取組みをSNS等を活用して県民に発信する体制を整備しており、発信力の強化が図られている。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部署名	農政部、環境生活部
担当課・係名	農村振興課、環境生活政策課
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日
	部門	環境部門
	事業名	自然生態系保全・再生事業(⑤生態系保全・再生に係る活動支援)
	事業概要	生態系保全活動の実施への支援
②事業目的	事業開始年度	団体支援、市町村支援(農務部門):平成24年度 市町村支援(環境部門):令和3年度
		・団体等や、市町村がおこなう里地里川の生態系保全の取り組みを支援することにより、県内の里地里川における生態系保全につなげる。 ・貴重な自然環境の保全や特定外来生物の防除など、市町村が地域住民との協働で取り組む活動を支援し、地域の生態系の保全と再生を図る。

③事業内容	【生態系保全団体支援事業】 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的取り組みへの支援 ・補助先:特定非営利活動法人、地域団体等・補助率:10/10(上限2,000千円/1団体) ・実施方法:公募により選定・公募による選定会議の費用含む。(200千円) 【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】 用排水路におけるスクミリンゴガイの駆除など、農地・農業用施設を対象とする生態系保全に取り組む市町村を支援 ・補助先:市町村・補助率:1/2(上限1,000千円/1市町村) 【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】 貴重な自然環境の保全や特定外来生物の駆除など、農地・農業用施設以外を対象とする生態系保全に地域住民と協働で取り組む市町村を支援 ・補助先:市町村・補助率:1/2(上限500千円、下限100千円/1市町村)						
	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業費	計画	(団体・市町村支援数) 120件	24	24	24	24	24
	実績	21件	21				
	事業費(千円)		60,326				
内訳	森林・環境税		29,720				
	(うち前年度繰越分)		0				
	他(国庫補助金等)		30,606				

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
Ⅰ 事業投資	指標名 ア)補助金額			<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input checked="" type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	団体への補助は計画値の64%、市町村への補助は計画値の89%となっており、予算の範囲内で効果的な活動が実施されている。市町村の計画への助言を行った結果、効果的な計画となり事業費が減少した。
	考え方 事業を実施する団体への補助金額	9,800千円	6,244千円		
	指標名 イ)補助金額				
	考え方 市町村(農務部門)への補助金額	9,000千円	7,784千円		
	指標名 ウ)補助金額				
	考え方 市町村(環境部門)への補助金額	24,950千円	15,615千円		
Ⅱ 事業結果	指標名 ア)実施団体数			<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	支援団体数は計画値の86%、支援市町村数は計画値の88%であり、広く活動が根付いている。
	考え方 生態系保全活動を実施する団体数	7団体	6団体		
	指標名 イ)実施市町村数				
	考え方 事業を実施する市町村(農用地)数	8市町村	10市町村		
	指標名 ウ)実施市町村数				
	考え方 事業を実施する市町村(農用地外)数	9市町村	5市町村		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【園児によるナマズの観察(関市)】	【ジャンボタニ駆除状況(各務原市)】	【オオハンゴンソウ防除作業(高山市)】

(3)効果検証

実施の有無	有	
⑧効果検証	【実施方法等】 ア【生態系保全団体支援事業】 実施方法等 ①検証項目:各団体の活動継続状況 ②検証方法:各団体からの活動実績報告(完了後3年間) ③検証対象:全ての補助金交付団体 ④検証頻度:年1回(3年間)	イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】 実施方法等 ①検証項目:スクミリンゴガイ、ヒシ等の発生状況 ②検証方法:市町村からの発生状況報告 ③検証対象地:補助市町村(定点調査(1路線)) ④検証頻度:1回(翌年度)
		ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】 実施方法等 ①検証項目:生態系保全に協働で取り組んだ地域住民の意識 ②検証方法:市町村からの参加住民アンケートの実施報告 ③検証対象:補助市町村(参加住民) ④検証頻度:年1回
		【検証結果】 ア【生態系保全団体支援事業】実施したすべての団体が過年度から継続して活動を続けており、地域に根付いた生態系保全の取り組みがなされている。 イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】前年度までの実績や啓発チラシの活用により、効果的な駆除が行われている。 ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】アンケートの結果、回答者の98%が生態系保全・再生への関心が高くなったと回答しており、地域住民の意識が向上した。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

総合評価	理由
⑨自己評価	
<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・7市3町で活動を行い、スクミリンゴガイの成貝・卵9.68t及びヒシ12.7tを駆除することができた。 ・採択された団体では、これまで実施してきた水田魚道を活用した生息状況調査、薬草による耕作放棄地の再生、小学生を対象とした環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的な取り組みが行われた。 ・特定外来生物防除のみならず、貴重な自然環境の保全等の取組みを推進することで、生態系保全・再生に対する地域住民の意識向上が図られている。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部・農政部
担当課・係名	脱炭素社会推進課・農地整備課
担当者名	

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和4年度	③事業内容 ⑦脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業 ・「森・里・川・海」自然体験交流プログラムや環境問題の体験と行動変容促進のためのプログラムの実施 ⑧カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業 ・カーボン・オフセット及びJクレジットセミナーの開催、ぎふ清流COOL CHOICE 学生アンバサダーの育成及び活用 ⑨次代の環境活動を担う人材育成支援事業 ・市町村が自ら企画・立案・実行する次代の環境活動を担う人材育成事業への支援 ⑩地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業 ・農業水利施設や水路等に設置した小水力発電施設を活用した環境学習を実施する団体を支援						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日							
	部門	環境部門							
	事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業(①脱炭素社会ぎふを支える人づくり)							
	事業概要	「脱炭素社会ぎふ」実現に向けた行動変容を実践する人づくり事業の実施							
②事業目的	事業開始年度	令和4年度	④目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	・「脱炭素社会ぎふ」の実現を支える人づくりを進めるため、カーボン・オフセットや地球温暖化、環境負荷の軽減、自然環境の保全、生物多様性などの環境問題について、県民が自らの問題として考え、行動変容の実践につながるよう、理解促進のための啓発活動や、自然環境体験・環境学習などの実体験・学びの場での活動等の事業を実施する。	計画		(体験プログラム等参加者数)	500	500	500	500	500
		実績		2,500人	290				
		⑤事業費		事業費(千円)	25,259				
				内訳	森林・環境税	17,854			
		(うち前年度繰越分)	0						
		他(国庫補助金等)	7,405						

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名	事業費	11,000千円	10,057千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
考え方		県実施事業(⑦、⑧)のコスト				
指標名		補助金額	11,000千円	7,798千円		
考え方		市町村(⑨)、地域団体等(⑩)の活動に対する補助金額				
II 事業結果	指標名	参加者数	500人	290人	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない	・(⑦、⑩)計画値に対して58%の実績値となったため。 ・(⑨)計画値に対して125%の実績値となったため。
	考え方	体験プログラム等への参加者数(⑦、⑩)				
	指標名	実施事業件数	4件	5件		
	考え方	市町村による人づくり活動が実施された件数(⑨)				

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真						
	【⑦水路の生き物観察】	【⑦間伐体験】	【⑧商業施設における実地研修】	【⑨指導者講習会】	【⑩小水力発電施設の見学会】	【⑩小水力発電施設の見学会】

(3)効果検証

⑧効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	<⑦脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業、⑧カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業> <⑨次代の環境活動を担う人材育成支援事業、⑩地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業>
	①検証項目:参加者数(⑦)、参加前後における参加者の理解・関心・環境保全意識の向上(⑦、⑧) ②検証方法:アンケートによる ③検証対象地:全ての実施事業 ④検証頻度:事業実施の都度	①検証項目:各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況(⑨)、参加者数(⑩) ②検証方法:事業実施主体からの実績報告書による ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:年1回
【検証結果】	⑦参加人数300人の目標数値に対し実績は235人、達成率78%であった。また、参加者に対するアンケートでは、回答者の100%が「自然環境への関心・理解が高まった」、「自然とかかわる意欲が高まった」と回答し、93%が「家庭で自然環境・環境保全に対する親子の会話がある」と回答した。 ⑧カーボン・オフセットセミナーにおけるアンケート回答者の98%が「参考になった」と回答し、71%が、「温室効果ガスの削減意欲が増した」と回答した。 ・学生アンバサダー育成研修におけるアンケート回答者の93%が、地球温暖化対策に関する自身の意識や行動が研修前と比べて変わったと回答した。 ⑨採択した5事業について、環境講座、自然環境活動などにおける合計参加人数2,974人の目標値に対し実績が2,224人となり、75%の達成率となった。 ⑩参加人数200人の目標数値に対し実績が55人となり、目標に達しなかった。初年度で認知度が低く、事業者からの要望が伸び悩んだことなどが考えられる。 一方、参加した小学生からは、小水力発電施設を見学することにより地球温暖化などの環境問題について考えるきっかけを持つことができた旨の感想があり、「脱炭素社会ぎふ」を支える人づくりを推進することができた。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業結果は、計画値に対して58%の実績値となった。これは、小水力発電施設を活用した環境学習について、令和4年度からの取組のため、事業の認知度が低く、事業者からの要望が伸び悩んだことなどが計画値を下回った原因と考えられる。 ・一方で、参加者からは「自然環境への関心・理解が高まった」、「温室効果ガスの削減意欲が増した」という声を多くいただいたことから、環境保全の取組みを後押しする効果が期待できる。

3 第三者評価

⑩第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
--------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部
担当課・係名	脱炭素社会推進課・企画係
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容	○地域循環共生圏促進事業費補助金 事業主体自らが計画から実行まで行う、地域循環共生圏構想の推進につながる活動(構想を知り広めるためのシンポジウム開催、関係する主体を増やしネットワークを構築するための事業、戦略を立てるための事業計画等の作成など)に対して支援 ・補助先:市町村、法人、団体等 ・補助率:補助対象経費の10/10(上限:1,000千円、下限:300千円) ・実施方法:公募により選定						
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日								
	部門	環境部門								
	事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業(②地域循環共生圏構想の促進)								
	事業概要	地域循環共生圏構想につながる活動に対する支援								
事業開始年度	令和4年度									
② 事業目的	・森林・河川など地域が有する「自然資源」、食糧生産・酸素供給などの生物多様性がもたらす恵みである「生態系サービス」、「資金・人材」などを活かして、自立・分散型の社会を形成しながらも、地域の特性に応じて地域資源を補完し支えあう「地域循環共生圏構想」について、市町村、団体・企業等が構想を推進するための支援を行う。			④ 目標	5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
	計画	(地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数) 25件	5		5	5	5	5		
	実績	0件	0							
	⑤ 事業費	事業費(千円)	1,340							
		内訳	森林・環境税		1,340					
(うち前年度繰越分)			0							
他(国庫補助金等)	0									

2 自己評価

(1)実績検証(繰越分を除く。)

指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由			
⑥ 実績検証	I 事業投資	指標名 補助金額	5,000千円	1,340千円	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 妥当でない	令和4年度からの新規事業として実施したが、採択件数が計画の5事業に対し2事業となったため。		
		考え方 地域循環共生圏構想につながる活動への補助金額						
	II 事業結果	指標名 地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数	5件	0件			<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input checked="" type="checkbox"/> 成果がない	採択した2事業とも、令和4年度中は導入部分の取組みが中心となり、プラットフォーム登録までには至らなかったため。
		考え方 構想の実現に向けて取り組んだ地域数						
指標名								
考え方								

(2)実施状況写真

⑦ 実施状況写真				
	【地域脱炭素のための推進事業】	【里・山・川の保全・活用を通じた地域おこし(地域循環共生圏構想)調査事業】		

(3)効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	①検証項目:各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況 ②検証方法:事業実施主体からの実績報告書による ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:年1回
	【検証結果】	採択した2事業について、セミナー・講演会、先進事例視察などにおける参加人数を目標数値(2事業合計で360名)として設定していたが、参加実績は計323名となり、目標数値の90%を達成した。

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業結果は、計画値に対して0%の実績となった。これは、採択件数が計画の5事業に対し2事業にとどまったこと、また、採択した2事業ともプラットフォーム登録に向けたセミナーや先進事例視察など、導入部分の取組みが中心であったことによるもの。 ・一方で、各地域における自然環境の保全を絡めたまちづくりの必要性や地域特性の再確認、今後の取組みに向けた検討などが進み、「地域循環共生圏」の取組みが推進された。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------

令和4年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

担当部局名	環境生活部・林政部
担当課・係名	脱炭素社会推進課・森林活用推進課
担当者名	

1 事業概要

① 概要等	実施事業年度	令和4年度	③ 事業内容 (1) 県民参画を促進する森づくり・川づくりの活動、(2) 水環境や生物多様性の保全を目指す活動、(3) 子どもたちのための森づくり・川づくりの活動、(4) 上記(1)～(3)の活動のうち、特に対策が必要である課題に対してモデル的に行われる活動 ・補助先: 団体、法人 ・補助率(1)～(3): 補助対象経費500千円以下: 10/10以内、補助対象経費500千円を超える分: 1/2以内 (補助金上限2,000千円/事業、下限300千円/事業) ・補助率(4): 補助対象経費1,000千円以下: 10/10以内、補助対象経費1,000千円を超える分: 1/2以内 (補助金上限2,250千円/事業、下限300千円/事業)										
	計画・評価年月日	令和3年12月22日/令和5年7月14日											
	部門	共通部門											
	事業名	清流の国ぎふ地域活動促進事業											
	事業概要	各種団体等が行う森づくり・川づくり活動等に対する助成											
② 事業目的	事業開始年度	平成24年度	④ 目標	5年間の目標値									
	・県内の法人、団体が主体となって自ら企画・立案・実行する創意工夫ある森づくりや川づくり及び水環境等の保全活動を支援する。			計画	250 件	R4	50	R5	50	R6	50	R7	50
⑤ 事業費			実績	52 件	52								
	事業費(千円)				49,196								
	内訳				26,802								
				0									
				22,394									

2 自己評価

(1) 実績検証 (繰越分を除く。)

⑥ 実績検証	指標区分	指標名・考え方	計画値	実績値	評価区分	理由
	I 事業投資	指標名 補助金額 考え方 森・川づくり活動等を行う団体等への補助金額	29,600千円	26,480千円	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ あまり妥当でない □ 妥当でない	・計画額に対し約89%の実績額となり、目標件数を達成できたため。
II 事業結果	指標名 実施事業件数 考え方 県民参加による、森・川づくり活動の件数	50件	52件	■ 成果が高い □ 概ね成果が高い □ あまり成果がない □ 成果がない	・応募件数62件に対し55件を採択し、そのうち3件は新型コロナの影響等により事業中止となったものの、計画値に対し、104%の実績額となったため。	

(2) 実施状況写真

⑦ 実施状況写真		【「小川で遊ぼう! IN山県」(といる)】
		【子どもたちが遊び続ける森づくり(一般社団法人いび森のようちえんこだぬき)】

(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	① 検証項目: 活動参加者数 ② 検証方法: 事業主体からの実績報告による ③ 検証対象: 全事業 ④ 検証頻度: 1回 ⑤ 開始時期: 令和5年度
	【検証結果】	令和4年度の活動参加者数は23,075人となった。令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、不特定多数の県民が参加する活動に対し、実施の自粛等を要請したため、15,000人前後の参加者数であったが、コロナ禍前の水準に戻りつつある。 ・本事業は、継続して事業を活用する団体の他、新規に取組みを始める団体も見られ、令和4年度は52団体のうち8団体が新規団体であり、1,956人の参加があった。活動を継続することで参加者数は増え、県民参画の活動の広がりが期待できる。

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・事業実施件数は、計画値50件に対し、52件の実績となり、目標を達成することができた。 ・当事業を活用した新規団体は52団体中8団体(森づくり活動(里山保全等を含む): 4団体、川づくり活動(流域交流や水辺環境保全等を含む): 4団体)であり、活用団体の広がりが見られる。また、「生物多様性について考える親子教室」や「小、中学生を対象とした身近な山林の整備」など多様な内容の活動が県内各地で実施され、多くの県民の環境保全意識の向上に寄与している。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
---------	------------------------